

キーワードを絞り込む詩の授業

ある日ある時

黒田三郎

秋の空が青く美しいという
ただそれだけで
なにかしらいいことがありそうな気のする
そんなときはないか
空高く噴き上げては
むなしく地に落ちる噴水の水も
わびしく梢をはなれる一枚の落ち葉さえ
なにかしら喜びに踊っているように見える
そんなときが

キーワードの絞り込み

前掲の詩を使って、キーワードを絞り込み、ねらいを焦点化する授業を行いました。その結果、一つのことをじっくりと深く考えさせることができました。絞り込んだキーワードは、「青く美しい」「いいこと」「喜び」の3つです。

本時の目標は、以下のとおりです。

「青く美しい」「いいこと」「喜び」に着目し、班での話し合いをもとに、全体で意見を交換し合うことにより、作者の思いについて自分の言葉でまとめることができる。

本時の学習課題を次のようにしました。

どうして青く美しいことが、いいことや喜びにつながるのだろう。

生徒の考え

- 秋の空を見て感動し、心が晴れ晴れした気分になり、噴水も落ち葉も、自分と同じように喜んでいるのではないかと希望がもてた。
- 青く美しいと、いい気持ち、すがすがしい気持ちになることができる。いいことが起こったりする。気分によって感じ方が違ってくる。
- 今まで何とも思っていなかった秋について、新しい発見ができてうれしい。秋に対しての考え方をかえた。
- 作者は、何気ない日常生活の中で幸せを感じることができ、それが喜ばしいことだということをこの詩に表現したのだと思う。
- 普段見慣れているような空を「美しい」と感じ、その観点から周囲を見たとき、代わり映えの無かったようなものの動きにも関心の目を向けられるようになった。
- 青く美しい秋の空を見て、気持ちがいやされたりすることで、マイナスの感情からプラスの感情になったのではないか。作者は、秋をプラスの面でみているため、「おどっている」「喜び」「いいこと」などの表現で、ちがう秋の見方ができるのではないか。
- 四季の中で、春は誕生、夏は生長、秋は実りと収穫、冬は春への準備とめぐっているけれど、秋の青く美しい空や噴水、落ち葉などを見て、いろんなものがめぐりめぐっているため、また準備をして誕生する「喜び」などと考えてつながったのではないか。